



米沢有為会
 仙台支部だより

第 21 号

令和元年5月12日

発行者

(公社)米沢有為会仙台支部

支部長 甲 國信

仙台市青葉区角五郎2-6-21

TEL 022-222-4790

寮生との交流会 平成 31 年 4 月 13 日 於：仙台興讓館寮

本年は新入寮生が入らず定員に四人不足の 11 名となりました。
 コップの桜の花を愛でながら懇談。

有為会の近況

創立130周年記念事業… 創立130周年にあたる2019年を目前にして有為会は昨年、「創立百三十周年活動ビジョン」を決定し、その内容は会誌68号に掲載されています。記念事業の第一弾として「置賜地区高校生」地域と私たちが既来实现されました。このコンテンツは、置賜地区から若者の流出が続く中、高校2年生に地域の将来と自分たちの未来について考えて欲しいとの思いで実施されたものです。コンテストの優秀論文集を会員にお送りしましたので、是非ご覧ください。

今後5カ年の活動の目標・計画の実現に必要な資金獲得のために、「百三十周年記念事業募金」を実施中です。ご支援をよろしく願います。

仙台興讓館の改修…

昨夏の記録的な猛暑で、仙台興讓館で一名の寮生が体調を崩しました。このような事態に、支部は記念事業の寮改修における空調設置の優先順位を再検討することを決定、昨年11月発行

の20号でお知らせしました。その後、空調に詳しい加川巖理事(支部建築委員会委員長)が、寮室に入りこむ熱量の解析を行った結果、外から室内に入る熱の大半が窓から侵入することが明らかになり、空調器を設置する代わりに内窓を設置することに計画を変更しました。こうすることにより、懸念された寮生の電気料の負担増が避けられると同時に、省エネにもなるメリットがあります。設置は6月末までに実施する予定です。

今春の仙台興讓館・東京興讓館の入寮生0…

今期31年春は入寮者ゼロの結果に終わり、現在の寮生数は留学中の1名を含めて11名(定員15名)です。近年の入寮者数は、相部屋の可能性を残して募集した26年春は0でしたが、個室明記で募集した翌27年春以降は、27年4名、28年6名、29年4名と順調で、28、29年は満室を達成しました。しかし、昨30年は入寮者数1名だけで、1名の欠員を生じ、今年に復活を期待していただけに非常に残念な結果となりました。東京興讓館も入寮者が0でした。このようなことは過去になく、事態を重視した育英事業部は、原因究明のため高校への調査を始めます。

令和元年度支部通常総会・講演会・懇親会の開催について

創立130周年にあたる令和元年度の支部総会と講演会及び懇親会は来る6月1日(土)に仙台ビジネスホテルで開催されます。今回は「創立130周年活動ビジョン」の策定の中心的役割を果たした大滝則忠会長が記念講演の講師を引き受けられました。支部会員との対話を楽しみにされています。万障お繰り合わせの上ご参加くださるようお願い致します。

【総会】15時から…30年度事業報告、決算…31(令和元)年度事業計画、予算等を審議します。

【講演会】16時20分から…

講演題目…「米沢有為会の縁」

講師 大滝則忠氏 米沢有為会会長、前国立国会図書館館長

略歴：昭和19年川西町玉庭生まれ。米沢興譲館高等学校卒。東京教育大学文学部(社会科学科法律学専攻)卒業後国立国会図書館に就職し副館長で退職。東京農業大学教授、平成24年から28年国立国会図書館長。平成29年米沢有為会会長。ライフワークとして日本発祥書総目録の編纂に取り組んでいる。

講演要旨… 米沢有為会創立130周年を寿ぎ、育英団体に集う同志の縁を

考える。今から130年前の在京学生会から始まり、全国的な置賜同郷人団体となつて、さらに同郷若人を経済的に支援する育英団体として発展する基盤には、郷土愛に立脚し、会員同士が率直に交流して切磋琢磨するすばらしい伝統がある。無私の奉仕精神で会の発展に尽力される諸先輩の背中から多くを学び、専らボランティア活動で成り立つ育英団体の今後について語りたい。

令和元年度有為会定時総会について

今年度の定時総会は6月22日(土)に東京第一ホテル米沢で開催されます。総会終了後に記念式典が行われます。詳細は、6月初旬にお手元に届く会報をご覧ください。里帰りとお組み合わせるなどして、ご出席をお考えいただければと思います。また、総会の成立には正会員の1/2の出席が必要ですので欠席される正会員は、後日議案書とともに送付される議決権行使書(委任状)を必ず提出されるようお願いいたします。

支部理事会(30年12月以降)

30年度第3回理事会 31年1月19日(土)
議題… 仙台寮改修計画の修正 ・3

0年度支部総会関連(開催日・場所) 講演会講師の選定)

31年度第1回理事会 31年4月28日(日)

議題… 30年度業務報告・決算、31年度事業計画・予算案、仙台寮改修計画の修正、総会と関連行事、会員異動役員改選



31年度第1回理事会

(支部長 甲 國信)

次回22号の発行は年末12月、「会員のコーナー」に是非原稿「旅行記・随筆・随想・趣味など」をお寄せください。

会員のコーナー

老年ライダーの記

遠藤光広

「書いた、愛した、生きた」
スタンダールの墓碑銘

プロローグ

スロットルを回すと速度計の針は120kmを超え、地響きのような排気音が車体を震わす。力強く加速してなお余裕である。体に響く振動を心地よく感じながら、福島飯坂温泉へと向かう。バイクと体が一体となった快感を感じつつ高速道を走り続けた。晴れ渡った秋の日、愛馬を駆って寮の同窓会に参加した。昨年のことである。

ハーレーとBMW

大型バイク好きには大きく分けて2種類あるように思う。ハーレー派とBMW派である。前者は自分流にカスタマイズした2気筒の爆発音をこよなく愛し、体に響くりズミカルなエンジン音に浸りながら、ゆったり走るのが好きである。後者は瀟洒なスタイルのマ

シーンで、何よりもスマートにスピードを出して疾走することを好む。求めるものが全く違うのだ。

レトロでSLめいたハーレーの車体はまさに「鉄馬」であり、ライダーはアメリカ西部のカウボーイを髣髴とさせ、ドコドコ走りながら風景と同化し、その空気を楽しむのが無上の喜びである。しかし、エンジンが止まれば鉄の塊と化して恐ろしく重い。車を止める場所には細心の注意が必要だ。乗り始めて間もない頃、何気なく止めたところが傾斜地で、人の助けを借りてようやく抜け出した思い出がある。

BMWのバイクは最新のテクノロジを詰め込んだ車体で、洗練されたデザインがかっこいい。ハーレーにはない都会的なセンスである。ドイツ製の車体は重さを感じさせない軽やかな発進と、なめらかな加速が身上だ。ハーレー好きの私だがBMWの1600GTは本当に心惹かれる。

では何故、私はハーレーに乗るのか。BMWバイクのエンジンは4気筒ないし6気筒であり、回転はなめらか、エンジン音は静かでブーンとモーターを思わせる。私にとってバイクというより自動車のエンジン音だ。これでは心が躍らない。

一方ハーレーは2気筒のエンジンか

ら溢れだす生命体のような鼓動が存在をアピールし、心地よく体を包んでくれる。この音が私のバイクの原点である。1970年に日本で上映された「イージーライダー」という映画が若者の心をとらえた。私は大学生であった。アメリカの広大な大地を駆け抜けるハーレーの姿が多くの若者の心に焼きついた。私もその一人であった。その頃の日本は高度成長期の終わりを迎え、GDPがドイツを抜き世界第2位へと駆け上がった時期である。しかし、当時の日本人にとってハーレーはまだ高嶺の花であった。2002年の「モーターサイクル・ダイアリーズ」という映画もあった。医学生だったチェ・ゲバラが友人とボリビアをバイクで旅行した「モーターサイクル南米旅行記」が原作である。こちらはイギリスのノートン製オンボロのバイクだが、どこかハーレーに似た雰囲気を感じさせていた。

私のバイク歴

私は学生時代に寮の先輩のバイクを借り、澁橋近くの河川敷で練習をした。125ccのバイクで、当時車体は鋳物でできていたから重かった。それでも急ブレーキで180度ターン、前ブレーキをかけ急発進で180度ターンなどの練習をやったりした。学生時代は試験勉強が得意だから筆記試験は難な

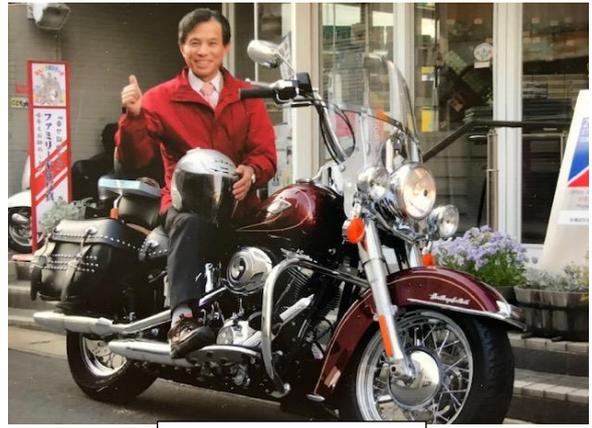
く通過したが、実技試験は1度目が予行演習のようなもので、2度目で通過した。その頃のバイク免許は各自が練習して直接運転免許センターで受験、限定なしで大型も乗れる免許だった。

これまでバイクは、カワサキ、ホンダ、ヤマハの50〜400ccバイクを何台乗り換えただろうか。通勤に利用していたので、バイクは私にとって欠かせない相棒である。娘達を保育園に送り迎えするのもバイク。小さいヘルメットをかぶせ、帯で結わえてうしろに座らせての送り迎えである。ホンダのビッグスクーター・フォルツァは20年で8万km乗った。2017年夏、このバイクは高速道路上で動かなくなりバイク店に引き取ってもらったが、店の人に「こんなに長く乗ったバイクは見たことがない。」とあきれられた。後継の街乗りバイクに、ヤマハのマジエスティーSを選び、今も健在である。

ハーレーを買った

ハーレーを手に入れるきっかけは、姜尚中氏の特集雑誌を読んでいた妻が「姜さんがハーレー乗りたいそうだよ。」という一言である。「私も乗ってみたいと思っているよ。」と私。「姜さんが乗りたいというからいいんじゃない。」と妻が言う。思いがけない言葉に心が躍り、早速バイク店へ。かなりいい加減

な動機である。しかし、気になるのが「ハーレーは故障が多く修理費が高い。燃費が悪い」という風評である。店のスタッフに聞いてみると「今は性能が良くなり、ほとんど故障はないです。部品は高いですけどね。燃費は高速道で走って確かめています。遠乗りすればリッター20km走りますよ。インジェクションで燃料の噴射がコンピュータ制御されていますから、昔とは全く違います。」という説明である。信頼できそうなスタッフの話に納得し購入を決めた。車種はヘリテージソフテイルクラッシュック1600、2011年2月に契約した。東日本大震災の直前である。3月11日午後2時46分、千年に一度の大地震が東北を襲った。バイク店は激しく揺れ、多くのバイクが倒れて大きな被害を受けたという。その影響で引き渡しは大幅に遅れ4月となった。4月下旬ようやくバイクを受け取り、店の前のバイパス道に出たが、車が多いうえに車体もハンドルも重く勝手が違う。初めての運転で緊張し、そのまま10キロぐらい直進北上して、ようやく左折する決心がつき家に帰ることが出来た。長い長い回り道であった。あの時の緊張感が懐かしい。



愛車ハーレーと筆者

バイクの面白さは？

「バイクは雨の日や冬は大変ですね。」と言われるがあまり苦勞とは感じていない。自動車を運転する人なら、雨の日やかんかん照りの日に快適な車内を捨ててバイクに乗りはしないだろう。バイクしか乗れない身を選択肢はない。覚悟が出来ているから雨も暑さも味わえば面白い。不便さは工夫する面白さがある。何しろバイクは360度の体感である。特に田舎道や小さな街を走っているときは、自然や街にとけこんで一体になっている。風を感じ、におい

を感じ、街の空気に、生活の匂いを感じる。五感を総動員しての走りだ。私はNHKのテレビ番組「新日本風土記」が好きでよく見ているが、あの番組を追体験しているような錯覚を覚える。

高速度は目的地に着くまでの時間短縮と信号のない快適さ、疾走する楽しみに向いているが、風景はどこも同じで面白味がない。ハーレーに乗るときは、全身で自然に浸りながら一般道、生活道を走るのが面白い。ゆったり走る姿は映画のワンシーンである、とナルシズムに酔いたくなる。

バイクの旅

2012年の夏の夏に妻を乗せて東日本大震災から1年後の被災地巡りをした。石巻から海岸沿いに女川、雄勝、南三陸町、そして気仙沼の大島へ渡る。大島の民宿に泊まり翌日は気仙沼から陸前高田、大船渡、釜石、浄土ヶ浜、2日目は宮古に泊まり、翌朝早くに田老地区の防潮堤と街の無残な光景を目の当たりにした。被災地のガレキが片づけられひと区切りついていたが、傷跡は生々しく復旧復興はまだこれからという状態であった。三陸海岸はリアス式地形で小さな入り江が多く、いずれも津波で家々が流され土台だけが残る痛々しい有り様だった。大きな湾の被害は報道されるが、小さな入り江の被害は二

ユースに取り上げられない。小さな入り江の集落にも確かに人々の営みがあったのだ。それらが忘れ去られたようにひっそりとたたずんでいる。心痛む風景であった。宮古から盛岡、そして仙台に戻った。一周800kmのツーリングとなった。娘を乗せ南三陸町と閉上の被災地を訪れる機会もあった。車体は350kg以上あり、後ろに一人載せても一人の時と走りはほとんど変わらない。エンジンをふかせば、大きなストライドでゆったり走る走者のように加速する。ブレーキをかけた時、初めて背中に人の重さを感じた。

その後も、毎年妻を乗せて復興する被災地を訪れた。毎年毎年高上げ工事が進み、街の風景は様変わりしていく。長大な防潮堤は人々の目から海を隔て海を遠ざけている。住んでいた人たちにとって、はたしてこれが故郷となるのだろうか、望んでいた復興の形なのだろうか。復興商店街のざわめきを聞きながら思った。

よく知られた詩をひとつ

わたしを束ねないで

新川和江

あらせいとうの花のように
白い葱のように
束ねないでください わたしは稲穂

秋 大地が胸を焦がす
見渡すかぎりの金色の稲穂

・・・・・・・・・・・・・・・・中略

わたしを名付けないで
娘という名 妻という名
重々しい母という名でしつらえた
座に

坐りきりにさせないでください
わたしは風

りんこの木と
泉のありかを知っている風
・・・・・・・・・・・・・・・・略

いい年をして、年甲斐もなく、もう年だから、あるいは役割や地位で人を束ねながら判断したがる。しかし、年の取り方、人生の過ごし方は人それぞれ全く違うものである。年令と共に体は痛んできくるが、人生はその人の心のありようで大きく変わる。私は年令で自分のやりたいことを狭めず、「年甲斐もなく」といわれることにも挑戦する覚悟だ。人生は死ぬまで自分のものである。他の人と一緒に束ねられてたまるものか。今日を、今を、生き生きできる時間になりたい。その思いがハーレーへと誘う。いいシーズンになると鉄馬にまたがってどこへ行くこうかと心騒ぐ。命とは一人一人に与えられた時間である。
(青葉区在住・支部理事・1967年
興譲館高校卒業)

仙台支部年間行事予定

※仙台興譲館行事

- ※4月7日(日) 大掃除・寮生総会
- 4月13日(土)
- ※春の交流会(寮生会主催) (会場: 仙台興譲館)
- 4月28日(日)
- ※第1回理事会
- 6月1日(土)
- 令和元年度仙台支部通常総会(仙台ビジネスホテル261-5711県庁裏)
- ・16時~17時
- 支部講演会17時~17時50分
- ・18時より懇親会
- ※6~7月前期リクレーション行事
- 6月22日(土)
- 令和元年度米沢有為会定時総会
- ・会場: 東京第一ホテル米沢
- 8月5日(月)
- 夏の交流会(七夕前夜祭・広瀬川原花火鑑賞会) (会場: 仙台興譲館屋上)
- (会場が手狭なことから、本行事の案内は、過去の参加者と参加希望者に限らせて頂きます。参加をご希望の方は7月22日までに、事務局 (Tel/Fax 022-222-4790) までご連絡ください。)
- ※9月29日(日) 大掃除・寮生総会

■10月5日(土)

- 秋の交流会(芋煮会) (会場: 寮近くの牛越橋下広瀬河畔)
- 11月 第2回理事会
- ※11月 後期リクレーション行事
- 12月14日(土)
- ※忘年会(寮生会主催) (会場: 仙台興譲館)
- ※12月下旬 第一次入寮面接
- ※1月14日(月) どんと祭
- 1月18日(土)
- ※新年会兼卒業寮生歓送コンパ(寮生会主催) (会場: 仙台興譲館)
- 2月 第3回理事会
- ※2~3月 温泉旅行又は食事会
- ※3月上旬 第二次入寮面接
- ※3月中旬 第三次入寮面接
- ※3月 末日 寮生総会

仙台興譲館だより

仙台興譲館寮生名簿

- 小形 祥史 (東北福祉大学健康科学部リハビリテーション学科2) [米沢興譲館H29卒] 川西町出身
- 梅沢 謙吾 (東北大学経済学部3) [米沢興譲館H29卒] 米沢市出身
- 留子中
- 佐藤 大貴 (東北工業大学工学部情報)

通信工学科3 [米沢工業H29卒] 高島町出身

渋谷 拓 (東北大学工学部機械知能航空工学科3) [米沢興譲館H29卒] 米沢市出身

島貫 英祐 (東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科3) [米沢東H29卒] 川西町出身

伊藤 真蒼 (東北大学工学部化学・バイオ学科3) [米沢興譲館H28卒] 米沢市出身

二瓶 太陽 (東北福祉大学総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科4) [米沢東H28卒] 米沢市出身

山路 啓太 (東北大学法学部4) [米沢興譲館H28卒] 川西町出身

山本慎一郎 (東北大学工学部電気情報理工学科4) [米沢興譲館H28卒] 米沢市出身

坂本 雄哉 (東北大学歯学部5) [米沢興譲館H27卒] 南陽市出身

西京 毅 (東北大学工学部機械知能学科M2) [米沢興譲館H25卒] 米沢市出身

■寮母 小野寺真知子さん

卒寮生の進路
松井 結大 (東北福祉大学教育学部教育学科) [米沢興譲館H27卒] 米沢市出身

就職先: 福島県立小学校講師

山口 憲武 (東北大学文学部人文社会学科) [米沢興譲館H27卒] 米沢市出身

就職先: 山形県立高校日本史講師
大河原和馬 (東北大学経済学部) [米沢興譲館H27卒] 米沢市出身

就職先: 税理士法人 豊計事務所

行事報告

興譲館忘年会(寮生会主催)

H30年12月8日
参加者: 会員11名寮生10名



興譲館寮新年会寮生会主催

H31年1月19日
参加者…会員6名寮生12名+H30
年卒業生3名

珍しく昨年卒業した福島の荒井洗毅
君（小野工業所）、東京の平駿人君（株
コムチュア）、新潟の宮田直輝君（山崎
製パン）が参加してくれた。



寮の庭の植物

イエギク（家菊）の話



寮の裏庭のキク

5月23日から寮の改修工事が始まり、わずかな庭も草が生えないような工事が行われるので、「寮の植物シリーズ」も最後になるようだ。

2年前の17号で春の花サクラについて書いたので、今回は秋の花キクについて記してみる。

昨年11月興譲館寮の裏庭に廻ってみると雑草の中に黄と白色の小菊が咲いている（写真）。今年は裏庭の草刈りを一度しかやらなかったため、一度刈った帰化植物のエゾノギシギシの葉が40cm以上に伸びて繁茂している。小菊はたぶん寮生は植えないと思うので

以前の寮母さんあたりが植えたものと思われる。植えた草本として他にアスパラガス、ヒガンバナ、ツルニチニチソウが見られる。

万葉集にはキク科の植物ウハギ（現在のヨメナ）、ヨモギなどを詠んだ歌はあるが、皇室の紋章にもなっているのに菊を詠んだ歌は全くない（平安時代に編纂された古今集にはあるという）のは不思議である。栽培されているキクは野生のどんな種類のキクから作られ、またいつ頃どこから来たのか興味をそそられた。

調べてみると、保育社の植物図鑑を書いた北村四郎（1906～2002年）博士によれば、栽培されている園芸種のキクは中国に自生するシマカンギク（日本でも近畿以西に分布）とチョウセンノギクが交配した雑種として生まれ、奈良時代のころに日本へ渡来したとされる。ちなみに北村博士は米沢の弟子であり、京都帝国大学の助教時代に指導教官であった。栽培品のキクは分類学上では1種類でイエギクと呼ばれます。江戸時代以降の改良によって、多彩なタイプの園芸品種が誕生したといわれ、花の大きさにより、大菊中菊、小菊と分けられている。

キクの花は古くから薬用や食用にされたという。特に私が興味があるのは

紫紅色の「もつてのほか」という食用菊である。調べてみると食用菊として約170年以上栽培されているのは「干し菊（菊のり）」を作る黄色い品種の「阿房宮」だという。山形県と新潟県でよく栽培される紫紅色の「延命薬」は約140年前からの栽培と推定され、この「延命薬」があまりにおいしいので、嫁に食わすのはもつてのほかから名前が来ているという。この名前では現代の嫁さんがかわいそうである。

インターネットのブログ「米沢の歴史を見える化」に、置賜地方で「もつてのほか」の中から香味とも申し分のない物を選択淘汰、その結果できたものが遅咲きで花の色が白っぽく変化した、「カシロギク」である。カシロは漢字で書けば化白で、置賜が生んだ日本一の食用菊なのだ、と出ているがその「カシロギク」とやらを一度は食べてみたいものである。

ルーバルコニー防水点検の立会い
で寮に行き、帰りに牛越橋の袂（たもと）の元小松英二有為会仙台支部長宅（現在はマンション）の前に同じ黄と白の菊が咲いているのに気付いた、寮の菊の出どころはここだ。

（仙台興譲館館長 滝口政彦）

編集責任者 滝口政彦